

# 特別講義「世界と日本の未来を考える」

## ～ 学長 × 受講者 座談会 ～

特別講義としては初めて、学部・学年の枠を超えて開講された、特別講義「世界と日本の未来を考える」。今回、講義を受講し終えたばかりの2人の受講者の方に、水口学長が、受講のきっかけや講義の様子について話をうかがいました。



### 外部講師による講義は企業研究にも直結

学長：今日は、特別講義を受講された鈴木さんと阿部さんをお招きしました。この講義は、今回初めて開講した講義だったわけですが、お二人がどんな気持ちでこの特別講義を受講したのか、実際に受講してみてどうだったかなどについてお話をうかがいたいと思います。まず、それぞれお名前と研究している内容を教えてくださいいただけますか。

鈴木：経済学部3年の鈴木未侑です。ゼミでは、企業目線を見た子育て支援制度について研究しています。

阿部：同じく経済学部3年の阿部衣葵です。私は、長く続く“長寿企業”がどんな経営をしているのか研究しているところです。

学長：お二人は、講義の後半で行った新規事業開発プロジェクトで同じチームだったようですが、もともと知り合いだったのですか。

阿部：この講義が初対面でした。

学長：初対面の人とチームを組むというのは、どうでしたか。

鈴木：最初はどんな風にみんなと接していけば良いのか分からなかったのですが、意見を出す人や、出された意見をまとめる人がいたので、自然とコミュニケーションができていました。

阿部：私にとっては全員が初対面でした。学年が違う学生もいたので、緊張感がありましたが、3年生として引っ張っていこうという気持ちで自分から話すこともありましたが、意見を言ってくれる人もいて、まとまりのいいチームだったと思います。

ます。

学長：この講義は、今回初めて開講された講義ですが、こういった理由やきっかけで受講されたのですか。

鈴木：私が受講した理由は2つあります。1つは、今就職活動をしているので、**第一線で活躍されている方の話を聴くことが就職活動の企業研究に役立つ**と思ったからです。もう1つは、チームに分かれた新規事業開発プロジェクトを経験してみたいと思ったからです。

学長：企業研究に役に立ちましたか。

鈴木：役に立ちました。企業がどんなふう to 社会課題にアプローチしているのかを知ることができました。

阿部：私は、この機会を逃して社会人になったら、今回講師を務める方たちに会ったり、話を聴いたりするのは難しいだろうと思い、受講することを決めました。



## 受講者同士の交流で コミュニケーション能力向上も

学長：実際に講義を受けて、印象に残っていることはありますか？

阿部：森永製菓(株)の宮井常務から、近江商人の心得をあらわす“三方よし”が語られたことが印象に残っています。ゼミで輪読を行ったときにも“三方よし”が出てきましたが、実際に企業の方も“三方よし”

の心構えを持ち、実践しているということを知ることができました。普段の学びとリンクしていることが嬉しかったです。

鈴木：私は、SDGs のカードゲームが印象に残っています。このカードゲームは、SDGs 実現への道のりを体感するゲームですが、それぞれが自己保身に走り自分のためばかりに資源を使っていくと、世界はどこかで持続可能ではなくなります。そうではなく、みんなで協力して資源を分けあっていくことが持続可能な社会につながることに気がきました。自分のことばかりではなく、みんなで協力していくことの重要性に早く気づくことができたら、世界はさらに良くなるということ、身をもって感じました。

阿部：このカードゲームがチーム制で行われたのも良かったですよね。**チームの他の人の考えを知ることや意見が異なったときの問題解決の方法など、人との付き合い方も学びました。**

学長：自分だけではなく、周りにどんな人がいるかを知ること重要だということですね。

## この講義でしかできない経験がある

学長：講義全体を振り返ってどうでしたか？

鈴木：充実度がとても高い講義でした。新事業開発の立案からプレゼン動画を制作する時期は、他の予定も重なり忙しかったのですが、その分、動画を制作できた達成感は大きかったです。

阿部：私も鈴木さんと同じように忙しく大変だなと思った時期もありましたが、世界には、想像以上に様々な社会課題があるこ

とに気づけました。私たち一人ひとりが、その社会課題に対して、“自分は関係ない”と思っていると、いつまで経っても課題は解決しません。これから社会に出ていくにあたって、しっかり社会課題の解決に関わっていかなければいけないと思いました。

学長：今回の講師の皆さんも、様々な社会課題を企業の力で解決しようとしています。一方、なかなか変わらない課題もあり、それほど課題が山積していると感じますね。ところで、鈴木さんと阿部さんは、同じチームで新規事業開発のプレゼン動画を制作したわけですが、どんな社会課題をテーマにするか、すぐに決まりましたか。

阿部：決まるまでにかかなり時間がかかりました。しかも、テーマが決まった後も、制作したプレゼン動画に納得がいかず、またテーマから考え直す、ということもありました。

鈴木：授業外の時間にリモートで打ち合わせしたりもしましたね。

学長：短期に集中して新規事業開発案に取り組んだわけですね。

鈴木：その分、成果には自信がありました。

学長：お二人は経済学部ですが、チームには地域政策学部の学生もいましたか。

鈴木：同じチームには地域政策学部の学生もいましたし、1年生や2年生もいました。学部や学年の違う学生がいるからこそ、それぞれの強みを生かしたアイデアを持ち寄ることができました。

学長：いろんな学生がいたわけですね。来年度もこの特別講義が開講されますが、どんな学生に受講してほしいですか。

阿部：大学生という立場だからこそ、今回のような講師に会うことができるので、**視野**

を広げたい学生には特に受講してほしいです。

鈴木：プロジェクトにチャレンジしてみたい学生にもおすすめですよね。学外で何かプロジェクトに参加したいと思っても、時間や場所の制約ができてしまうことがあります。大学内で、しかも講義でプロジェクトにチャレンジできるのはとても魅力的です！



## これからは企業の力で社会課題に挑む

学長：最後に、この講義を受けて、社会課題に対するお二人の意識や行動に変化がありましたか？

鈴木：小さな一歩ですが、ごみの分別に対する意識が高くなりました。

阿部：私は、ニュース番組を見る機会が増えました。

学長：身近で出来ることから始めたり、社会に関心を持ったりすることはとても大事ですね。お二人ともいずれ卒業したら働くことになると思いますが、身近でできることはもちろん、ぜひ**企業や官公庁の力を使って、今後社会課題を解決して欲しい**と思います。お二人のこれからの期待しています。今日はどうもありがとうございました。

鈴木/阿部：ありがとうございました。